

## 年間第 23 主日 (マルコ 7:31-37)

今も、命をもたらす声が聞こえない人がある



先週、中学二年生「堅信クラス」の親子に、「堅信を受ける中学生と保護者の心構え」についての話を、クラス担当の洪助祭にお願いされて話しました。基本的なことを話したわけですが、久しぶりに勢いのある中学生と向き合う機会になりました。

話の内容は「こうじ神父」という YouTube チャンネルを見てくれるとありがたいですが、こんなオジサンのお話をまともに聞けようかと半信半疑でしたが、意外と真剣に話を聞いてくれていたと思います。

反抗心も対抗心も、すべてを含め、中学生からの真剣なまなざしを感じて、柄にもなく途中からは力を込めて話していました。私を「道具」に、イエス様が中学生に向けて「エッファタ」「開け」と呼びかけていたのだろうと思います。

イエス様が「エッファタ」「開け」とおっしゃるとき、それはどこに向かって開けと命じているのでしょうか。身の回りの音に向けて開けと言っているのでしょうか？たとえば、自分の家でくつろいでいるとき、さまざまな音がそこにあると思います。

テレビの放送の音。テレビで放送されていない情報を得るためにラジオを流していることもあるでしょう。親子でリビングにいれば、子どもたちは自分だけが見たいものを見ようとして YouTube に耳を傾けているかも知れません。たくさんの音が、同時に聞こえている。家族でない人がそこに居たら、どの音に耳を傾けたら良いのか分からないくらいです。

情報は溢れかえっています。どの情報も、それなりに有益です。ただほとんどの情報が、聞けなかったとしても命に関わる問題ではないはずです。それに比べて、イエスが「エッファタ」「開け」と言って届けようとする声は、命に関わる大切な声なのです。

命に関わるもの。イエスは私たちに、「エッファタ」「開け」と叫んで、「命を得るために、わたしに耳を傾けなさい」と招きます。イエスが向けようとして開くのは、イエスの声、イエスの招きです。その招きに耳を傾けることが、私たちに求められているのです。

日々の生活で、イエスの招きに耳を傾けるためには、溢れかえっている音を遮断しなければならないこともあります。たくさんの音が溢れている部屋で電話を取ったなら、たいてい人はテレビの音を消したり、会話を控えたりして電話に集中するはずですが。

皆さんの家庭で、イエスが「エッファタ」「開け」と招く声を聞くために、どれだけの音を遮断してくれているのでしょうか。物理的にだけでなく、心の中で遮断して、イエスの招きがより良く聞こえるような努力をしたことがあるのでしょうか。

イエス様が、「エッファタ」「開け」とおっしゃれば、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになります。

「神様の声なんか聞こえない」と決めてかかっている人がいるなら、いちど周りの音を全部遮断してみてください。全部の音を遮ったとき、ただ一つの声「エッフアタ」「開け」というイエスの声に触れるのです。

そしてイエスは心に届いた声を、誰かに届けてほしいと願っています。それは聞こえない声が聞こえたという怪しい魔術ではなく、本当に必要な声を聞いたという体験です。聞き逃しても命に関わるほどではない情報ではなく、命を養うまことの食べ物、飲み物を与えてくださる声です。私たちは今日、ミサに集まってこの声を聞いたのです。

今の時代にも、イエス様の働きは続いています。イエス様は私たちを使って、命をもたらす声が聞こえず、その声の主について語ったことのない人をいやそうとしておられるのです。私たちが良い道具となって、だれかに「エッフアタ」「開け」と働きかけるとき、イエス様の働きはいつの時代にも実を結ぶのです。

◆耳が聞こえず舌の回らない人をいやす

7:31 それからまた、イエスはティルスの方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。

7:32 人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れて来て、その上に手を置いてくださるようにと願った。

7:33 そこで、イエスはこの人だけを群衆の中から連れ出し、指をその両耳に差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れられた。

7:34 そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エッフアタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。

7:35 すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになった。

7:36 イエスは人々に、だれにもこのことを話してはいけない、と口止めをされた。しかし、イエスが口止めをされればされるほど、人々はかえってますます言い広めた。

7:37 そして、すっかり驚いて言った。「この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてくださる。」